



クマサルを引き寄せている

集落の 放置果樹対策



集落内の放置果樹が野生動物を引き寄せています

- 昔**の集落
- ・人は山の木を利用
 - ・柿や栗の実も収穫
 - ・たくさんの方が暮らす



- 今**の集落
- ・人は山の木を利用しない
 - ・柿や栗の実も収穫しない
 - ・高齢化、過疎化がすすむ



集落にある果樹を昔は人が利用していましたが、今は多くの果樹が収穫されずに放置されています。果樹は品種改良されているため、山の実りよりも甘くて栄養があります。本来、野生動物たちは山の中を動き回って、食べ物を探していますが、一度集落に出て来て、手っ取り早く食べられるおいしい果樹を知ってしまったら、くり返し出てくるようになります。



果樹の管理を進めましょう

被害を防ぐためには、防護柵などの対策と併せて、野生動物を集落へ引き寄せてしまう果樹の対策も考える必要があります。

果樹の管理をしっかりすれば、クマなどの出没が減ります！

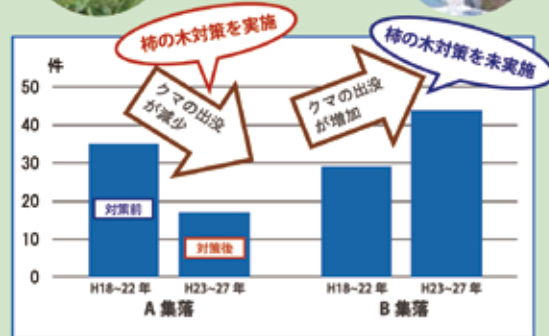
不要な果樹の「伐採」



クマが登りにくくなる「幹のトタン巻き」



A 集落では 10 年ほど前に、不要な柿の木を伐採したり、幹にトタンを巻くなどの対策を行ってきました。他の集落と比較しても、クマが利用できる柿の木が少なくなっています。その結果、現在では A 集落へのクマの出没は、以前より少なくなっています。



柿の木対策実施によるクマの出没件数の変化

果樹の管理方法 集落や個人で必要な分だけ育てましょう

所有する果樹が管理不能な場合は、伐採したり、管理しやすい大きさにすることを勧めます。

木を切る

管理できない木など、切ってもよい場合は、思い切って伐採することも必要です。



木を低くする

木を低くすれば、管理も収穫もしやすくなります。



計画的に栽培・収穫

品種にもよりますが、柿の実がおいしいのは、樹齢 30 年頃までです。良い品種の若い木を残して、しっかり防護し、きちんと収穫しましょう。



伐採事例 具体的な取り組みが各地で始まっています

知る

集落で学習会を実施し、集落内の果樹が、野生動物のエサとなっている現状を知ります。



選ぶ

アンケートなどで、伐採してもよい木をリストアップし、計画を立てます。



但馬県民局「クマ出没予防対策モデル事業」より

切る

専門技術を要する作業と、住民の皆さんでできる作業に役割分担するなど、安全性を十分確保したうえで伐採します。伐採後の運搬作業にボランティアを活用する事例もあります。



伐採は危険な作業も含まれるため、技術を有する専門作業員を含んだ数人のチームで行います。



伐採した幹や枝を運びやすいように玉切りにします。



作業場からは、トラックなどに乗せて運搬します。



森林動物研究センターでは野生動物の生態調査や獣害に強い集落づくりの指導・助言を行っています。



〒669-3842 丹波市青垣町沢野 940 TEL: 0795-80-5500 FAX: 0795-80-5506 HP: <http://www.wmi-hyogo.jp/>

01 農 02-013A4